

令和4年度 第2回三島市男女共同参画プラン推進会議 報告

1 日 時

令和5年3月13日（月）10：30～12：00

2 場 所

市役所本庁舎3階 第1会議室

3 出席者 … 12人

青木委員、橋本委員、石橋委員、大槻委員、大野委員、榊委員、佐藤委員、鈴木委員、
中園委員、永倉委員、原委員、宮川委員

4 欠席者 … 4人

寺田委員、二ノ宮委員、日吉委員、松久委員

5 事務局

飯田企画戦略部長、畠政策企画課長、齊藤主幹、西川主査、稲見会計年度任用職員

6 会議の公開状況及び傍聴者数 … 公開 傍聴者数0人

7 会議の内容 … 別紙のとおり

会議の内容

- 1 開会
- 2 市長挨拶
- 3 議題（進行：青木座長）
 - (1) 令和5年度男女共同参画推進事業（政策企画課所管）事業計画（案）について
 - (2) 三島市における男女共同参画の視点からの防災に係る取組について
 - (3) 委員から報告
- 4 閉会

【質疑応答及び意見交換】

1 令和5年度男女共同参画推進事業（政策企画課所管）事業計画（案）について

委員：次年度実施予定の「男性の育休取得促進セミナー」について、企業及び一般労働者向けというのは、どこに働きかけるかは決まっているのか。

「“取るだけ育休”から“意義のある育休”へ」のテーマは本当に大事なこと。良いテーマであるのでそれをもっと濃いものにしていただきたい。市民サービスの「質」は人それぞれであるため、個々にあったサービスを展開していただきたい。三島信用金庫のプラチナくるみんプラスは素晴らしいため、三島市の企業に広く呼び掛けていただけたら良いと思う。

事務局：セミナーについては、市内事業所の他、市外にも広く呼び掛けたいと思っている。今年度実施したセミナーでは、移住・定住サイトなどでも募集した。実際は約40%が市外からの参加者であった。三島市では企業に対して、男女共同参画の取組みを推進しているのだとPRし、移住・定住にも繋げたいと思っているため、次年度も市内は当然のこと、市外にも広く声掛けをしたいと考えている。

委員：男性労働者向けの男性の育休取得と家事育児参画セミナーについて、内容は素晴らしいと思う。20代前半の男性とライフプランについて話す機会があるが、「今、自分たちも子育てをしなくてはならない時代ではあるが、ノウハウもなく自信も

ないから結婚に躊躇してしまう。同棲で終わりたい。」というような意見があり、そのような考えが増えているように思われる。時代が変わり、やらなくてはいけないが、家事や育児のノウハウは高校などでも教わっていないため、どうしたらよいか分からない人が増えているため、セミナーを若年層向けに実施すれば、結婚する人も増えるのではないか。また、結婚して子どもがいない男性も「周りの人のように自分にはうまくできない」と言う人もいた。

女性で育休をとっている方のほとんどが「肩身が狭い」という意見であった。周囲の人にも協力できるような環境が整うと良い。民間提案制度も「こういったことに関して何か意見ありませんか」と逆に問いかけて募集した方がまた良い案がでてくると思う。

委員：昔は男性も女性もノウハウや経験もなく、その場でぶつかってやっていくしかなかったように思う。考えすぎないことも必要。

委員：最初の子どもは男性も女性も自信がなくて、育児書を眺めたり、他の人に聞いたりしながら子育てをしていく中で、これまでは女性が丸抱えをしていたところもあったため、男性と一緒に悩んでくれると非常に心強いのではないかと思う。若い人たちが子育てに対して二の足を踏んでいるのは、子どもを産んだときの負担感が、経済的なことだけでなく、仕事や自分の時間と子育てとのバランスをとらなければならないという精神的な負担がネックになっているのだと思う。

委員：静岡県パートナーシップ宣誓制度について、県外に転出した時に、受領証を返還しなければいけないということに驚いた。相互連携をしている自治体が少ないように思える。福岡県は県外での相互連携をしている。この制度が引き続き活用できるような取り組みが全国的に広がっていけば、介護などの部分にも含めて、いろいろと広がりが見えるのかなと思った。是非とも三島市から、総合連携を図るような取り組みについてもおこなっていただきたい。

委員：子どもたちにとって性の問題は、親やテレビの影響を受ける。今、世界でも取り組みが進んでいて、トーマスやペッパピッグなどの子ども向け番組では、トーマスでは自閉症の機関車が出て、ペッパピッグでは同性婚の親が登場した。

女性が半袖短パンであるのが変ではないのと同じように、男性が髪の毛を長く

したり、化粧したりしても良いと思う。自分も子どもたちに示すためにも、保護者の方にもご説明をしながら今、髪の毛を伸ばしているところ。

2 三島市における男女共同参画の視点からの防災に係る取組について

事務局：本報告は、先週土曜日の3月11日で東日本大震災から12年であり風化させてはいけないということと、三島市や静岡県においても南海トラフ地震が迫っているため、他人事ではなく自分事でとらえなければいけないということで、このような機会での取り組みを紹介させていただく。

委員：一昨年、「男女共同参画を考えた地域防災 東日本大震災の女性の声から」の中で、御前崎市の防災士で新潟地震のときからずっとボランティアをされている落合さんのお話を伺い、とても勉強になった。会議にも必ず女性を入れるなど、女性が「参加」ではなく「参画」することが大切。トイレの近くでレイプが起こるため、避難所では女性と男性のトイレは離す方が良いなど、マニュアルにも取り入れていただきたい内容が多くあったため、落合さんのお話を読んでいただきたい。

委員：ホテルを避難所にするということは、熱海でも評判が良かったため、費用がかかることではあるが、今後頑張ってもらいたらいいなと思う。
避難所に何%ぐらいの人が逃げてくるという想定での計画なのか伺いたい。

事務局：避難所には、多くても300人前後しか入りきらないため、基本的には、家が無事な場合には、一旦自宅で待機することをお願いしている。昭和56年以降の住宅については、基本的に耐震化がされている。三島市は津波がこないため、面的な被害はないと考えている。

委員：避難所に性的少数者の方の視点も必要に思う。

事務局：ここ10年ぐらいは女性の視点を取り入れた避難所の運営が取り入れられているが、今もうすでに時代はLGBTの方など、様々な視点を設けなさいと県からも言われており、これからの課題だと認識している。

3 委員から報告

委員：第1回目の会議の後に、「男女共同参画勉強会をしますので、興味のある方は参加しませんか」とSNSで呼びかけたところ、男性2名、女性7名、計9名の方が集まってくれた。30代から50代ぐらいで、三島市民だけではなくて長泉などの周辺地域の方も来てくださった。属性としては、経営者、個人事業主、もともと勤め人でリタイアされた方、結婚されている方、されてない方、お子さんがいる方、いない方、様々であった。

開催の動機としては、自分自身がこの会に参加し、アクションプランを見たときに、かなり広範囲にわたる内容が男女共同参画というものに含まれており、勉強不足を感じた。ジェンダー関連のものだけでなく、高齢者、外国人、障がい者の方など、誰もが活躍できる社会を目指すというところに追いつけていなかったことや、本会議の委員が前回おっしゃった、日本の男女共同参画は後退しているというワードがとても引っかかり、改めて勉強したいと思ったのが動機だった。

この会では、まずなぜこの勉強会に参加しようと思ったのかという動機を、自己紹介と併せて聞いた。それだけで1時間半の時間を使ったが、そこに皆さんがどういう観点で、男女共同参画に興味を持っているのか、どういう課題感を持っているのかということがとても詳しく聞いたので、第1回としてはとても良かったと思っている。

一部だけ紹介すると、夫婦関係や家族関係で、自分が女性だからという理由で無意識に夫や家族から役割を押し付けられてしまいもやもやすることや、女性活躍を推進している会社で、自分は子どもがいないため、子どもがいる女性との待遇で差がありもやもやしたりすることや、自分は女性だからメリットを感じて生きてきたので、逆に女性として生き辛さを感じてきた人の声を聞きたいという女性もいました。

男性の意見としては、子育ての面で、自分はどう関わっていけばいいのか知りたい、幼い子どもや社会的弱者である方をどう地域社会に活躍の機会を設けるかというところの視点を持ちたいという意見があった。他にも、防災の観点や、母親という女性のラベルを持つことで、自己肯定感が低くなっていることについて

の課題感など、様々な視点で皆さんが関心を持っているということをお互いに知ることができて、まずは第1回として良かったなと思っている。

この勉強会を開催したときに、こういったことを語る場がない、また男女共同参画を語るときに、意識が高くて知識がないと参加できないのではないかというハードルがあったとのことだったので、こういうライトの場があってとても良かったという感想をいただいた。今後も続けていきたいと思っている。

委員：実は前回会議が終わった後に委員から、勉強会をやりたいのでぜひ参加して欲しいと言われ参加した。参加者は非常にモチベーションが高いように感じた。やはりジェンダーというのは、気づきの問題で、今まで当たり前と思ったことを、「本当に今でも当たり前なのか」と問い直すことだろうと思うので、こういった意見交換という場は非常に貴重であると思う。